

保健体育系科目の概要

Ⅰ．「保健体育系」の目的・目標

1. 身体、身体運動やスポーツ（Muscular Activity）についての科学的思考能力の育成
2. 健康（度）や体力（フィットネス）の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性やコミュニケーション能力の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯スポーツへの橋渡し

Ⅱ．保健体育系における授業の方向性

スポーツ運動学の実技において身体活動や筋運動を通じた教授学習過程におけるシークエンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動（スポーツ種目）強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間（継続、実施）
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量（強度 × 時間）
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

Ⅲ．保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目：スポーツ運動学実技 A およびスポーツ運動学実技 B
2. 人間科学副専門科目：健康スポーツ科学論
「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面を講義では取り扱う。
3. リレー講義科目関連：リレーセミナー
上記のスポーツ運動学の実技、講義の受講以降、実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育（生命体工学研究科 生体機能 生体適応システム講座）との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるように実施している。それは「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験を含んだ内容から構成されている。

スポーツ運動学実技 A Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科 学年：1 年次 学期：前期

単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおし、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

スポーツ運動学実技B Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科 学年：1 年次 学期：後期

単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおり、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおり（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

スポーツ運動学実技・B（後期）に関しては、木曜 5 時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」（これまでの「いわゆる「成人病」」）の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体トレーニング、体力＝健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日の健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体トレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康—その 1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その 2 生活習慣病の出現
- 3) その 3 食事と運動と休息・休養（睡眠）の関連
- 4) 「体力」概念—行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果—運動・スポーツに関する生理学の基礎（総論）
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力（心・血管系）に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際（総論）運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック（運動実施のための健康診断）、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その 1、その 2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価の方法・基準

期末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義 2～3 回に 1 回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター（編）スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康（新書版）岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780-1/I-18/2
4. 池上晴夫：適度な運動とは何か 講談社 780-1/I-21, 480/B-2/739
5. 時実利彦：脳の話（新書版）岩波書店 081/I-2/461

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

テーマ別リレー講義 「人権とはなにか」

What are human rights?

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：全学年

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 八丁 由比（コーディネーター）

1. 概要

一つの題目について様々な専門領域から考察を試みる授業。複数の教員がそれぞれの視点から行う講義を聞き、テーマについて考え、レポートにまとめる。

今年度のテーマは「人権とはなにか」である。言い古された感のあるこの言葉の持つ意味について、どれほどの人が具体的に考えたことがあるだろうか。日本国憲法は人権を「侵すことのできない永久の権利」として、現在及び将来の国民に約束し、国際連合憲章はその序文において人権に対する信念を確認している。その後、世界人権宣言、世界人権規約などが発表され、2006年には人権理事会が発足するなど、法制度だけを見ると人権は国際的関心が高く手厚く保護されているかのように思えるかもしれない。本当にそうだろうか。

実際の世の中に目を転じてみると、人権が脅かされていると思われる場面は多々ある。戦争に巻き込まれて命を落とす市民、難民となって行き場を失った人々、文化や法制度の異なる国で裁かれ、自由を奪われた外国人労働者や観光客。日本国内にも同様のことは散見される。いじめ、ハラスメント、国籍や性差による不公平、障害や病気に対する偏見、社会的弱者に対する虐待、急速に進む科学技術の発展や情報化社会における人権問題。一体人権とは何だろうか。なぜ守らなければならないのだろうか。国によって、時代によって考え方が違うのだろうか。どんな時に侵害されるのか、自分は他人の人権を侵してはいないだろうか。人権は本当に普遍的価値として受け入れられているのか。「人権」というテーマを通して、たくさんの「なぜ」を問い、人とは何か、権利とは何か、人権とは何かについて考えてほしい。

2. キーワード

生命、権利、自由、社会

3. 到達目標

人権という概念がいつ、どのようにして生まれ、社会に広まったのかを理解する。

人権を巡る諸問題はいかなるものか理解し、なぜそのような問題が起こるのか考える。

人権を巡る問題について、自分の考えを論理的に述べるができるようになる。

4. 授業計画

1. ガイダンス（八丁由比）
2. イギリスにおける「人権」の歴史（水井万里子）
3. イギリス文学にあらわれた人権の主張（虹林慶）
4. ドイツ文学作品に表れた人権の扱い方（反町裕司）
5. アメリカ文学作品にみる人権問題（大野瀬津子）
6. 明治期の日本における人権概念（本田逸夫）
7. 日本国憲法と人権（北九州市立大学教授 小野憲昭）
8. 学校教育と子供の人権（東野充成）
9. 日本における外国人の人権（アブドゥハン恭子）
10. 経済活動における人権（辻隆司）
11. アメリカ国内と人権（R. ロング）
12. 医療における人権（九州大学准教授 原田博子）
13. 情報化社会と人権（非常勤講師）
14. 先端科学技術と人権（放送大学教授 岸根順一郎）
15. 哲学と人権（中村雅之）
16. まとめ（八丁由比）

5. 評価の方法・基準

- ・リアクションペーパー
- ・レポート

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

他人の論文やインターネットの文章などを断りなく引用するこ

とを「剽窃」という。剽窃がみつかった場合は履修資格を失う。

多くの参考文献や新聞を読んだ上でレポートを執筆することを勧める。物事を考え、意見をまとめ、レポートとしてまとめる訓練をしたい学生を歓迎する。

7. 教科書・参考書

- ・教科書は指定しない。
- ・参考文献の詳細は授業中に指示する。

8. オフィスアワー

コーディネーター：八丁 総合教育棟 410 号室

e-mail：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

月曜日 3 限または個別に設定した時間

2013 年 リレーセミナー 「転換期の食と農」

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成・水井 万里子・辻 隆司

1. 概要

食及びそれを産出する農業は、人間の生命活動そのものにかかわる点で、人類のもっとも基底的かつ永続的な営みのひとつである。同時に、近年、食や農業をめぐる、ドラスティックな変化や新たな課題が発現しつつある。ミクロレベルでの食行動や食生活の変化とマクロレベルでの食文化や食習慣の変化、農業生産に伴う環境負荷の問題化と農業による環境保全の動き、農業生産の企業化と農産物の投機商品化、農産物貿易をめぐる保護主義と開放主義の闘争の先鋭化、地域によって二極化する飢饉と飽食など、食や農に関する問題は、個人的な意識や行動のレベルに始まり、ドメスティックな農業政策や環境政策といった内政上の課題、貿易や地球規模での環境保全といった外交上、グローバルな諸課題とも分かちがたく結びついている。

本セミナーでは、こうした多様かつ多層な問題群を内包する食と農というテーマについて、3 人の教員がリレー形式で参加し、学生の理解を深めることを目的とする。セミナーでは順に、ミクロレベルの問題、内政的な問題、歴史的展開も含めたグローバルな問題について取り上げる。

2. キーワード

食育 環境教育 農業ビジネス フェアトレード モノの世界史 グローバリゼーション

3. 到達目標

- 1 資料を正しく理解する。
- 2 根拠をあげて論理的に議論ができる。
- 3 資料と議論をふまえ、筋道の通ったレポートを作成できる。

4. 授業計画

- 01) イントロダクション（東野）
- 02) 食行動と食文化の変化（東野）
- 03) 食育の在り方（東野）
- 04) 農業と環境教育（東野）
- 05) 食の工業化（東野）
- 06) 世界の食料需給動向（辻）
- 07) 農業ビジネスの在り方①（辻）
- 08) 農業ビジネスの在り方②（辻）
- 09) 第 6 回～第 8 回の総括（辻）
- 10) 食の歴史の変遷（水井）
- 11) 食文化の伝播（水井）
- 12) 植民地における農業生産（水井）
- 13) フェアトレードの考察（水井）
- 14) 総括（東野）
- 15) 試験（東野）
- 16) 解説（東野）

5. 評価の方法・基準

授業内のディスカッション（プレゼンテーションなども含む）、3 回のレポートを総合して行う。60 点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・セミナーという形式上、受講制限を設けることがある。
- ・新聞等に毎日必ず目を通すこと。

7. 教科書・参考書

- ・教科書は使用しない
 - ・参考文献は以下の通り
- 岩村暢子『変わる家族と食卓』勁草書房 498.5/I-10
 佐藤洋一郎『里と森の危機』朝日選書 081/A-1/786
 大江正章『地域の力』岩波新書 081/I-2-4/1115
 木村伸男『現代農業のマネジメント』日本経済評論社 ISBN: 9784818819887

小澤拓也『コーヒーのグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房 619.8/O-1

マクファーレン『茶の帝国』知泉書館 383.8/M-6

8. オフィスアワー

相談窓口はコーディネーターの東野（総合教育棟 309）

電話・FAX 093-884-3433

e-mail:higashi@dhs.kyutech.ac.jp

オフィスアワー：火曜 13 時～16 時